

教育総務部の方針書

部名	教育総務部
部長名	栗田 律子

1. 部の使命(ありたい姿)

「楽しく学び郷土愛あふれるまちづくり」の実現

・子どもから大人まで一人一人が、ふるさと横手に愛着と誇りを持って、自らを高め、未来を切り拓いていけるよう「後方支援」を行います。

担当政策	政策2: 学びの充実とスポーツの振興により、生きる力と豊かな心を育みます	
担当施策	2-2: 安心して学べる教育環境の整備 2-4: 活力ある地域と心豊かな人を創る生涯学習の推進	2-3: 元気なまちを築く生涯スポーツの促進 2-5: よこての伝統文化の継承と再発見

2. 部の抱える課題(現状)

- ・学校統合計画の円滑な推進と学校施設長寿命化対策の継続実施
- ・スポーツ施設の整備・修繕計画(案)の推進
- ・「今後の市立図書館の方向性」具現化に向けた取り組み
- ・「金沢城跡」の発掘調査の推進と今後の調査方針の検討

3. 今年度の『スローガン』

- ◎明るく・元気よく！
- ◎チーム一丸となって！

4. 今年度の方針

- ・安全で安心して学べる教育環境の整備
- ・生涯にわたる市民の豊かな学びの場の提供のための取り組み
- ・郷土学習の更なる推進と伝統文化の継承

5. 今年度の重点取組項目

(1)	実現したい成果	安全で安心して学べる教育環境の整備
	取組内容	<ul style="list-style-type: none"> ・十文字小学校建設工事の着手と開校準備委員会の設置による協議の推進 ・学校施設長寿命化改善計画に基づく事業の着実な実施 ・小中学校へのICT環境整備(機器の計画的配備と、活用支援策の検討)
(2)	実現したい成果	生涯にわたる市民の豊かな学びの場の提供
	取組内容	<ul style="list-style-type: none"> ・老朽化したスポーツ施設の整備・修繕計画(案)の推進 ・より多くの市民がスポーツに親しむことができる事業の推進 ・「今後の市立図書館の方向性」具現化に向けた検討
(3)	実現したい成果	郷土学習の更なる推進と伝統文化の継承
	取組内容	<ul style="list-style-type: none"> ・「金沢城跡」の発掘調査の継続と後三年合戦関連遺跡の今後の調査方針の検討 ・伝統芸能育成チーム事業の推進 ・総合テキスト「よこてだいすき」の活用等による郷土学習の更なる推進

6. 方針に対する年度上期(4月～9月)の取組状況

(1)安全で安心して学べる教育環境の整備

・十文字小学校統合事業⇒6月定例会で議決を得て建設工事に着手。順調に進んでいる。「開校準備委員会」を設置済。小委員会での検討進行中。

・学校施設長寿命化事業⇒増田中、旭小、平鹿中等、工事着手済。順調に進んでいる。

・小中学校へのICT機器環境整備⇒9月末までに、小学校にプロジェクタ52台配備済。

(2)生涯にわたる市民の豊かな学びの場の提供

・スポーツ施設の整備⇒6月定例会で横手スキー場存続の陳情採択を受け、安全性等の把握に向けた予備調査費を9月補正予算で計上。

・横手駅東口公益施設への図書館整備⇒利用者アンケートの実施。国のアドバイザー制度を活用してのアドバイザーとの意見交換(3回)。ソフト事業検討会(4回)。ワークショップ(2回)。設計者との協議など。

(3)郷土学習の更なる推進と伝統文化の継承

・発掘調査⇒ほ場整備に係る発掘調査(柴崎遺跡)8月初旬終了。7月末から金沢柵推定地の発掘調査開始。

・伝統芸能事業の推進⇒子ども歌舞伎を9/22に大雄小学校で上演。金沢掛け唄育成チーム新メンバー7人が、9/14の本番の大会に出場。

7. 年度下期(10月～3月)に向けた課題と取組方針【ギャップと対策】

(1)安全で安心して学べる教育環境の整備

・年度内に「開校準備委員会」の検討状況の確認等を行い、次年度につなげていく。

・ICT機器の配備(年度内・中学校にタブレット120台)と並行して、活用支援策の検討及び情報セキュリティ管理の周知徹底を図る。

(2)生涯にわたる市民の豊かな学びの場の提供

・次年度予算編成に向けて、スキー場等スポーツ施設の整備・修繕計画の検討を進める。

・ホストタウン事業をきっかけに普及が期待されるバドミントンに、多くの市民が親しめる環境づくりを進める。

・新横手図書館整備計画の具体化を進める。

(3)郷土学習の更なる推進と伝統文化の継承

・金沢推定地発掘調査第2次5カ年計画の最終年度にあたり、後三年合戦関連遺跡調査計画の今後の方向性について検討する。

・市長部局のまちづくり推進部文化振興課との効果的効率的な業務分担と連携強化

8. 総括(取組みの結果と成果、次年度に向けた課題【結果と成果】)

(1)安全で安心して学べる教育環境の整備

・十文字小建設工事は順調に進捗している。次年度は、今年度設置した「開校準備委員会」の各委員会における協議、準備作業を計画的に進め、令和3年4月の開校をめざす。

・国において「GIGAスクール構想の実現」に向けた学校内の通信ネットワーク整備と児童生徒への1人1台端末整備の方針が示されたことから、現在市で進めているICT機器整備の計画の見直しが必要となった。国、県の動向を注視し、国の財政措置を活用しながら整備を進めていく必要がある。

(2)生涯にわたる市民の豊かな学びの場の提供

・横手スキー場の今後の方向性について、今年度は、存続を求める陳情者との話し合い、緩斜面側の踏査調査の実施、天下森スキー場の整備の検討などを進めてきた。調査結果を踏まえ再検討した結果、存続は困難であり廃止せざるを得ないとの方針を確認し、陳情団体、特に利用していた学校、議会等へ廃止の方針を示した。

次年度は、天下森スキー場及び赤坂総合公園の冬季利用の環境整備方針を示しながら、廃止に向けた手続きを進めていく必要がある。

・2020東京オリンピック・パラリンピックに向け、オリンピックを招聘してのバドミントン教室、講演会、親子体験会などのイベントを開催し、バドミントンの普及につながる活動を行うことができた。オリンピックイヤーの次年度は、さらに機運の醸成を図る取り組みを展開していく。

・横手駅東口公益施設への図書館整備については、今年度は、国の地域情報化アドバイザー制度を活用して、専門家からのアドバイスをいただきながら関係各課と連携して施設の基本設計についての協議を進めてきた。次年度も引き続き、アドバイザー制度を活用しながら、さらに具体的な内容の検討を行い、準備を進めていく。

(3)郷土学習の更なる推進と伝統文化の継承

・金沢推定地発掘調査は、第2次5カ年計画が今年度で終了。これまでの調査で、西麓部を残してほぼ遺跡の年代を把握できるまでになった。次年度からは「第3次調査」として、残る西麓部の調査を行って金沢柵の特定をめざしていく。